

アイヌ生活文化再現マニュアル

踊り

【ウポポ・ホリツパ・リムセ】

浦河・釧路春採編

発刊にあたって

公益財団法人アイヌ文化振興・研究推進機構は、平成9年より、アイヌ文化等に関する研究の推進やアイヌ語を含むアイヌ文化の振興やアイヌ伝統・文化に関する知識の普及・啓発を進めるため様々な事業を展開しております。

そうした事業の一環である「アイヌ生活文化再現マニュアル作成事業」は、アイヌの伝統文化を、映像や音声、文字などによって記録し、アイヌの人々をはじめとして、広く一般の人々や研究者の利用に供することにより、アイヌ文化の伝承・保存を図ることを目的としています。

本マニュアルがより多くの人々の利用に供され、アイヌ文化の振興が推進されるとともに、我が国の多様な文化の一層の発展が図られれば幸いです。

目 次

発刊にあたって

はじめに 5

〈浦河地方〉

コタンコロカムイ（村の守り神の舞） 10

カムイリムセ（熊送り儀礼の舞） 17

ニカタクイクイ（小鳥の舞） 25

〈釧路春採地方〉

フッタレチュイ（女性の黒髪の踊り・松の木の踊り） 34

ウポポ（座り唄）

イカムッカサンケ／チュプカワカムイラン 45

ロホンリムセ（棒の舞） 49

おわりに 60

参考文献 62

踊りを体験できる施設 63

— 凡 例 —

- ・映像編に入れることのできなかった解説等も記しました。したがって、映像編と文言等で一部異なる個所があります。

はじめに

アイヌの人たちは、儀礼などで人が集まった時には、歌いそして踊りました。アイヌの踊りは地域により「リムセ」、「ホリッパ」と呼ばれ、その種類は多種多様です。アイヌの人たちは、歌や踊りを大事な儀式や親しい人が集まってきた時に、行ってきました。アイヌの踊りは地域により「ウポポ」、「ホリッパ」、「リムセ」と呼ばれ、その種類は多種多様です。狩猟や採集の対象であった動植物をモチーフとして表現したり、体力の続く限り踊る、体力くらべのようなもの、杵つき等の作業の様子を踊りにした^{はら}ものなどがあります。こうした娯楽としての踊りの他に、神々へ感謝の気持ちを表す踊りや、魔を祓うための踊りもありました。



一般財団法人 アイヌ民族博物館蔵 「白老アイヌの生活」(大正11年)より

現在では、自分が楽しむものから劇場で上演するなど、観客に見せるという要素も入っています。また、歌のメロディーや歌詞が似ていても意味や解釈が異なっていることがあり、地域や時代により変化してきたとも考えられます。

このマニュアルでは、北海道の浦河地方・釧路春採地方の2つの地方に伝えられている踊り6種を紹介します。

浦河地方：「コタンコロカムイ（村の守り神の舞）」

「カムイリムセ（熊送り儀礼の舞）」

「ニカタクィクィ（小鳥の舞）」

釧路春採地方：「フツアレチュイ（女性の黒髪の踊り・松の木の踊り）」

「ウボポ（座り唄） イカムツカサンケ／チュブカワカムイラン」

「ロホンリムセ（棒の舞）」



コタンコロカムイ



カムイリムセ



ニカタクィクィ



フツアレチュイ



ウボポ イカムツカサンケ／チュブカワカムイラン



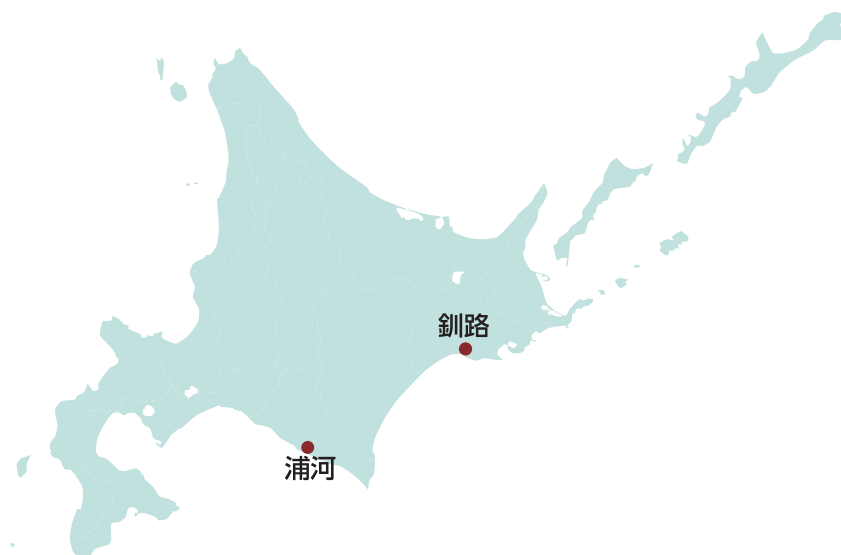
ロホンリムセ

■解説者

浦河地方：
浦河アイヌ文化保存会
堀 悦子さん



釧路春採地方：
春採アイヌ古式舞踊釧路リムセ保存会
吉川 冠人さん



浦河地方

コタンコロカムイ (村の守り神の舞)



コタンコロカムイ

北海道浦河地方に伝わるコタンコロカムイ（村の守り神の舞）は、村の守り神であるシマフクロウが羽ばたく様子を踊りにしています。シマフクロウは、夜、人々が寝静まってから村に降りてきて人々を守ってくれる神様として崇められてきました。浦河地方の踊り・コタンコロカムイは、着物の裾の両端をつまんで持ち上げて広げ、頭に被って踊ります。広げた着物を閉じたり開いたりすることでシマフクロウの羽ばたきを表現します。歌い手と踊り手に分かれます。

■ 歌詞 ※1

♪ エッサラー （フンフン） ※2

エッサラーサーウッサラー （フンフン） 以上くりかえし

※1 アイヌ語は片仮名表記
現在浦河地方に伝わるアイヌ語の歌詞です。

※2 （ ）内は間の手

■ 準備

昭和の頃には、着物を裏返しに羽織り、女性はモウル（肌着）姿で、着物の裾を持ち上げ、頭に被って踊りました。頭に被ることで表にあった背中の文様が表れます。

現在は、文様を生かした袖なしの専用の着物を作り踊りの衣装にしています。刺繍された文様は、浦河地方の着物に伝統的に用いられていたものです。



専用の衣装を着たところ（文様のある方を裏にします）



専用の衣装を頭に持ち上げたところ

裾の端は親指で挟みます。



■ 踊りの各部

基本的な動作です。

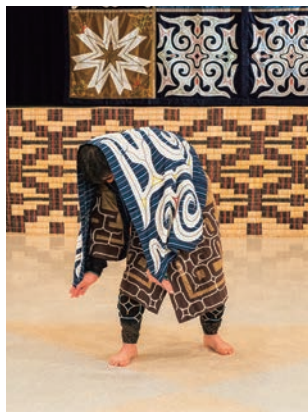
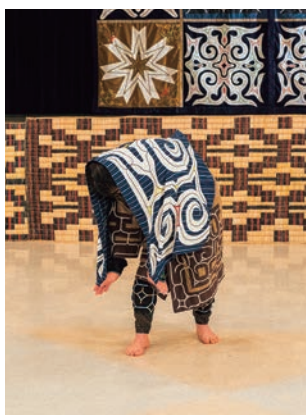
《基本の動き》

- ① 専用の着物の両裾を左右に広げ頭に被ったまま、右足を踏み出し、上半身を曲げ、両腕を前で閉じます。
左足を引いて右足に揃えながら、身体を起こして、両腕を広げます。
羽ばたきの動きです。



その場で正面向きで上半身を曲げ、両腕を前で閉じ、
身体を起こして両腕を広げます。

②起きあがった後、右足、左足、右足の順で1歩ずつ斜め前に進みながら、一歩ごとに羽ばたきを1回ずつ行います。右足を前に出すときは、体を斜め右に向け、左足を出すときは体を斜め左に向けます。



正面を向き、両腕を前に閉じて広げる羽ばたきの動作を1回行います。



以上、基本のうごき①、②の動作を繰り返して踊ります。

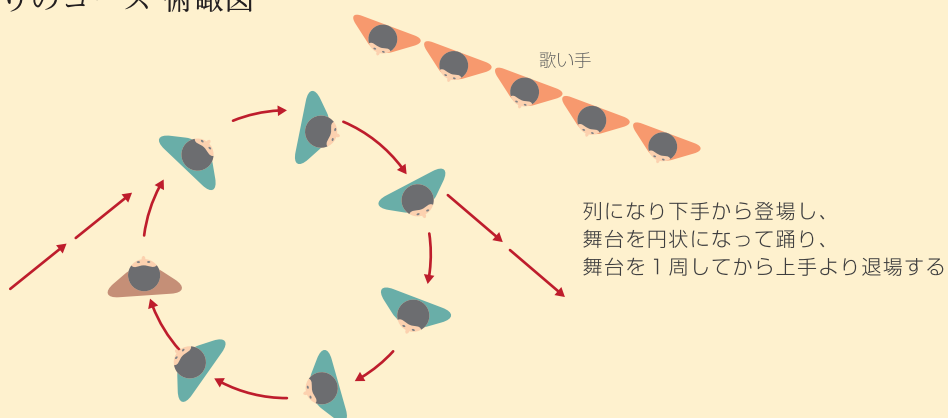
③女性の場合、基本のうごきの①、②は足を開かず進行方向へ直線上を移動するように前に足を進みます。



舞台を想定して、踊り手は下手から登場し、時計まわりで輪を作り一周して上手に退場します。



踊りのコース 俯瞰図

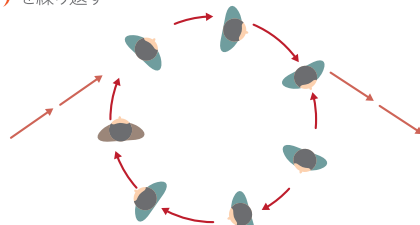


＜コタンコロカムイの翼となる衣装＞



踊り全体の動き

列になり下手から登場し、舞台を円状になって踊り、上手より退場する踊り
アを繰り返す

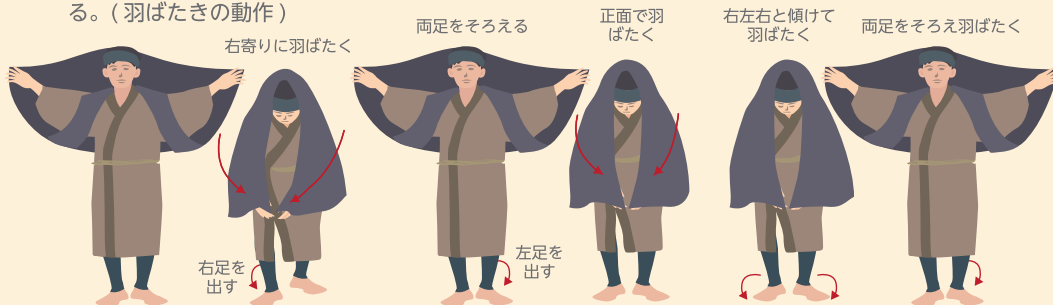


各部の踊り

ア・右足を前へ踏み出しながら右側に腰をかがめ両腕を前で閉じ、そして開くときに左足を右足に揃える。(羽ばたきの動作)

・左右の足が揃ったらもう一度正面を向いて羽ばたく動作

・右、左、右と足を1歩ずつ前に進めながらそれぞれ1回羽ばたくとき左右の足の動きに合わせ身体を傾ける



男性の足の動き

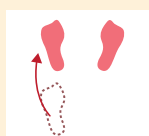
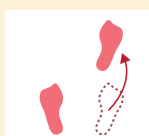
右足を1歩踏み出す

足をそろえる

その場で1回羽ばたく

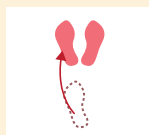
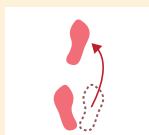
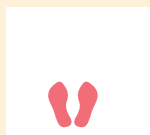
右、左、右と1歩ずつ進み羽ばたきも右左右と傾ける

その場で1回羽ばたく



女性の足の動き

女性は足を開かず進行方向へ直線上を移動するように足を前に出す



コタンコロカムイは、儀礼の時などに楽しみとして踊られていたといわれています。本来は輪踊りで、いつまでも踊り続けることができますが、このビデオでは、舞台などを想定した踊りとなっています。

カムイリムセ (熊送り儀礼の舞)



カムイリムセ

浦河地方のカムイリムセは、イオマンテ（熊送り儀礼）、イチャルパ（先祖供養）、カムイノミ（神々への祈り）などの儀礼が終わった後や、人々が大勢集まった時に踊られました。

カムイ（神）を神の国へ送り出すときに歌う唄に合わせて踊ります。歌い手と踊り手に分かれます。男性はタクサ（清め草）を持って踊ります。

■ 歌詞 ※1

♪ ホイヤアオー トゥーンケー ホイヤオー（ホイヤアオー トゥーンケー ホイヤオー）※2

♪ ホイヤアーオー ルール サーン ホイヤオー（ホイヤアーオー ルール サーン ホイヤオー）

以上くりかえし

※1 アイヌ語は片仮名表記 浦河地方に伝わるアイヌ語の歌詞です。

女性は、着物の袖をつかみながら踊ります。多くは、女性だけで踊られますが、男性が入る場合は、タクサを持って踊ります。



タクサは、魔を払い身体を清めて病気を払うときに使われます。浦河の熊送りの儀礼では、タクサで地面を掃きながら魔を払い、道をきれいにし、ヒグマの神をカムイモシリ（神々の世界）に送り帰します。

男性の踊り手は、掛け声をかけながらタクサを時折、大きく振ります。

カムイリムセは、基本的には輪踊りで、交代で踊るといつまでも続けることができます。このビデオでは、舞台などを想定した踊りとなっています。

■ 踊りの各部

《道具》

タクサは笹やヨモギで作られます。ここでは笹でできたタクサを、棒に留めたものを使います。男性は右手にタクサを持ちます。



《基本のうごき・男性の踊り手》

左手は腰に当て、左足を横に出して膝を曲げたときにタクサの下を地面に打ちつけます。次に右足を引いて両足を揃え、膝を曲げてタクサを地面につけます。これを繰り返して左横に進みます。



時折タクサを、振ります。振り方に特に決まりはありませんがここでは2通り紹介します。

A. タクサを両手で下向きに持ち、左右に振ります。



B. タクサを両手で持ち、タクサを右上から下向きに振り、左上に振り上げ再び右上に持ってきます。

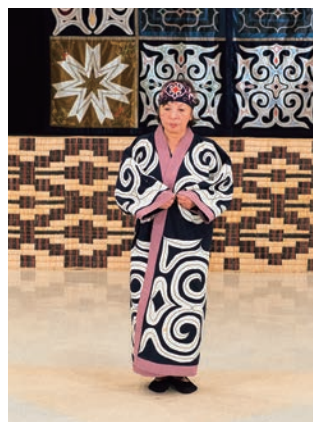
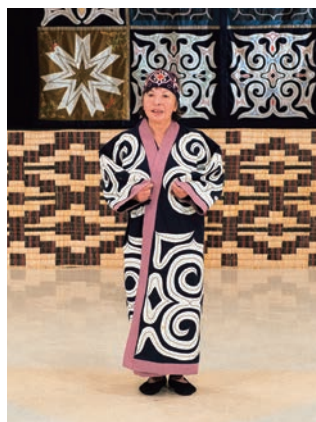


《基本のうごき・女性の踊り手》

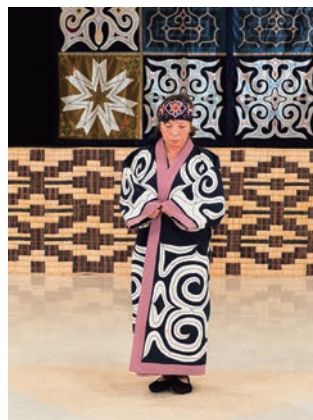
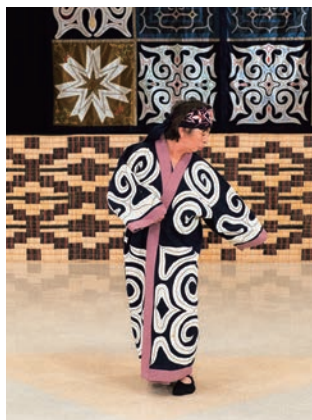
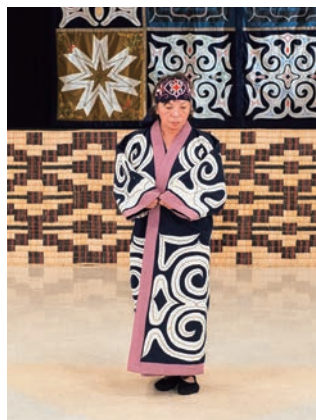
人差し指で着物の袖をつまみ、肘を軽く曲げ手を腰の位置に置きます。



①膝を曲げて右足を一步踏み出しながら、身体と顔を右にひねり、右手を右下に広げ、腰に戻すまでの動作を5回繰り返します。左向きでも左右対称の動きで5回行います。また、この動作は歩きながら行います。

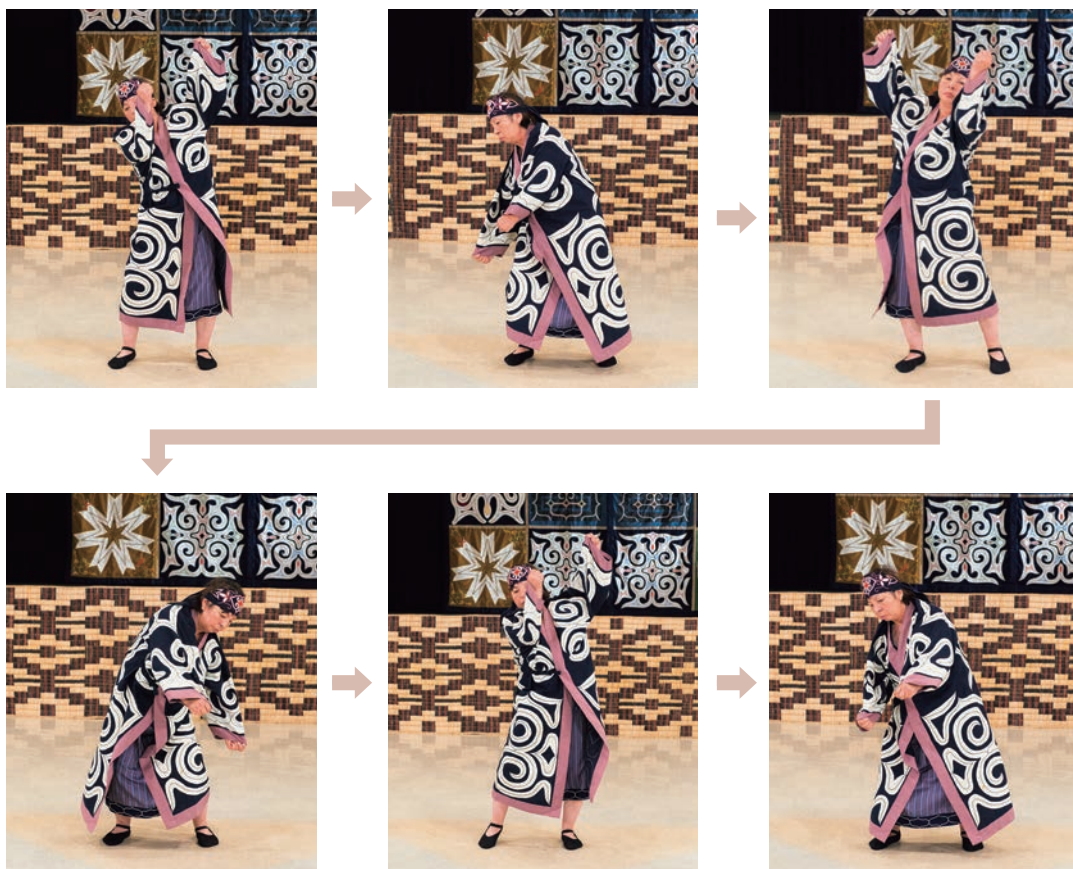


右向きの動作



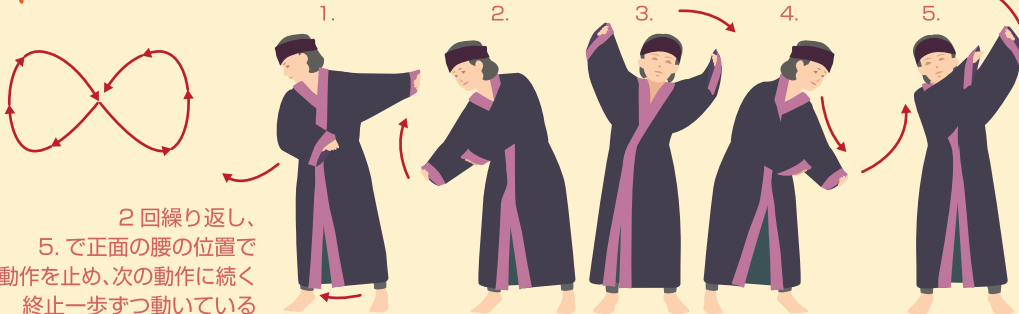
左向きの動作

②左足を踏み出して両手を左上に上げ、上半身で大きく8の字を描くように動かします。



上半身の動かし方

↑ 右足を1歩踏み出し上半身と両手で大きく8の字を描くように



8の字の動きが一回りした後、左右に両手を広げ、右足を一步前に出しながら両手を前で合わせ、手前に引く動作を3回行います。

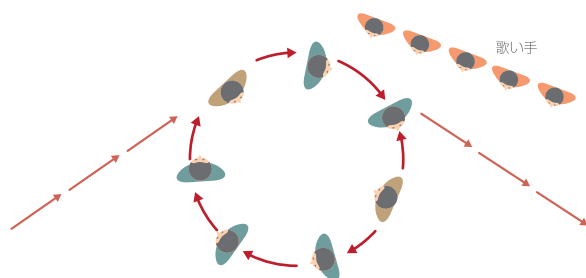


《基本のうごき・全体》

舞台を想定し、下手から入場し、中央で輪になり一周して上手に退場します。

もとは、輪踊りなので、人数に制限はなくいつまでも踊り続けることができました。

※列になり下手から登場し、舞台を円状になって踊り、上手より退場する踊り



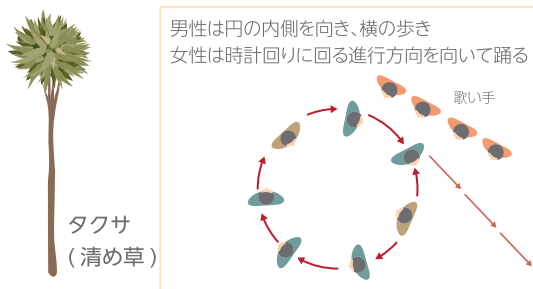
歌い手

1、2、
ア、イ、ウの順でくりかえし踊り進む

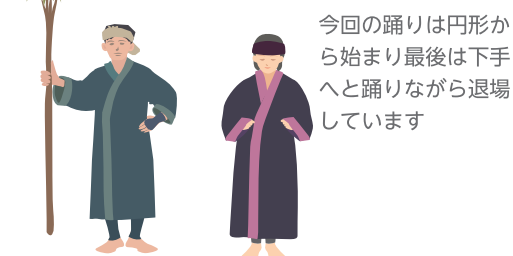
踊り手は下手から登場して輪をつくり上手に退場する



踊り全体の動きと各部の踊り



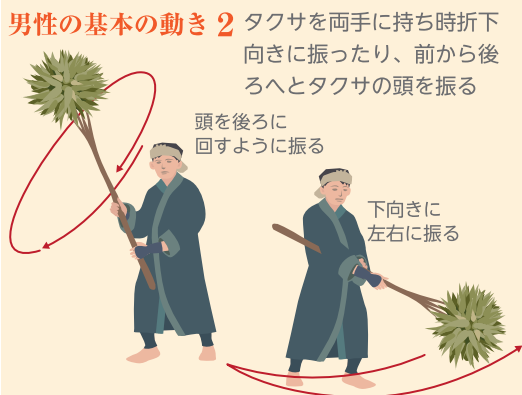
男性はタクサを持ち基本動作**1. 2.**
女性は**ア. イ. ウ**の動きを繰り返す



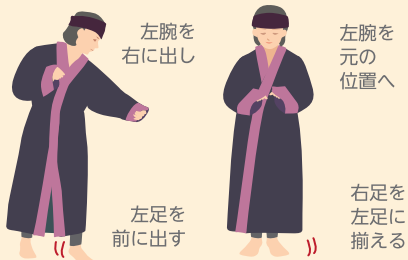
男性の基本の動き 1



男性の基本の動き 2

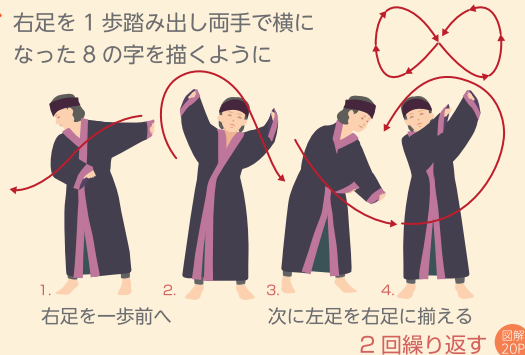


ア 右足を1歩踏み出しながら右腕、身体を右に開き、足をそろえるときに身体を戻す

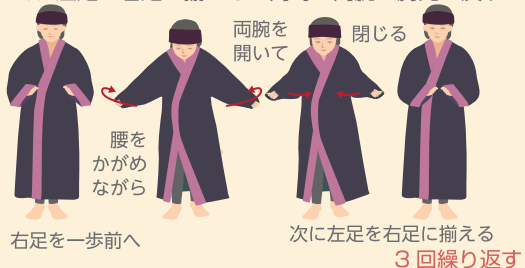


左右対称の動作を各5回づつ行う

イ 右足を1歩踏み出し両手で横になった8字を描くように



ウ 右足を1歩前に踏み出し身体を軽くかがめ、両腕を開く。左足を右足に揃えると同時に両腕を胸元に戻す



3回繰り返す

ニカタクィクィ (小鳥の舞)



ニカタクィクィ

ニカタクィクィは浦河地方に伝わる、冬の情景を表した踊りです。雪が積った木の枝に、小鳥がとまり、枝の雪が粉雪になって舞い落ちたり塊になって落ちて来る様子、小鳥たちが枝から枝へ軽やかに飛び移ったり、枝の下を通り抜ける仕草も表しています。歌い手と踊り手に分かれ、男女が参加して踊ります。

■ 歌詞 ※

♪ ニカタ クィクィ ハチリナ
ウバシコネ ルプネー ハチリナ

以上くりかえし

※ アイヌ語は片仮名表記 浦河地方に伝わるアイヌ語の歌詞です。

舞台での踊りを想定し、踊り手たちは飛び跳ねながら、左右から登場します。一列に並んで踊り、両腕を閉じたり広げたりすることで、小鳥の羽ばたき、飛ぶ様子を表します。



中央の男性二人は立ち木で、手をつなぐのは枝の重なりを表しています。小鳥たちが枝の下をすり抜けるたびに枝から雪が落ちてきます。



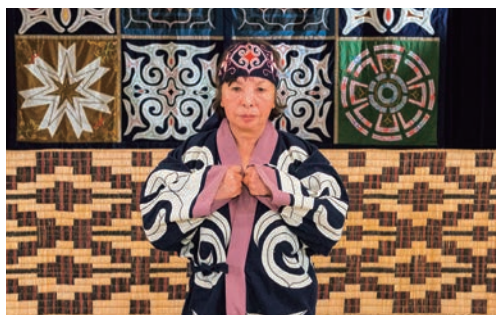
■ 踊りの各部

基本的な動作です。

《基本の動き》

① 専両袖を人差指でつかみ、胸や腹のあたりに置きます。

一歩踏み出すと同時に前傾姿勢で両手を広げ軽く跳ねます。次に跳ねながら足をそろえて胸や腹のあたりに手を寄せます。これを6回繰り返します。



- ②上半身を左に傾け、軽く跳ねながら両腕を広げ、
降りる時に手を胸元に戻す動作を5回行います。



つづいて、上半身を右に傾けて、左に傾けた時とは左右対称の動きで時計回りに1回転します。



反時計回り、時計回りに踊り終えた後、基本のうごきの①を4回行います。

③ 《中央2人の踊り手》

内側の手をつないで高くあげ、外側の手を閉じたり開いたりを繰り返します。外側の手を開く時、顔も外側に向けます。手の動きに合わせて、外側の足を外側に出します。



④ 《中央の2人以外の踊り手》

両端の踊り手から、外回りで移動し、左側、右側の踊り手の順で交互に1列に並びます。



⑤ 女性の踊り手は、中央の二人の手の下をくぐります。踊りは基本のうごきの①です。

通り抜けた後は、それぞれもとの位置に戻り一列になります。



⑥全員が元の位置に戻ったあと、基本のうごき①を続け、舞台袖に退場します。最後は小鳥たちが左右に飛び去り静けさが戻って終わります



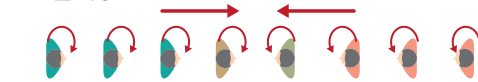
今回紹介するのは舞台を想定した踊りです。踊り手は上手、下手から登場して一列に並び、中央の2人の手の下をくぐり、もとにもどって一列に並びます。それぞれ上手、下手に退場して終了です。

踊り全体の動きと各部の踊り

① アで上手、下手より踊り手は登場



② アで下手側上手側が会ったら正面を向く



③ 正面でアを4回



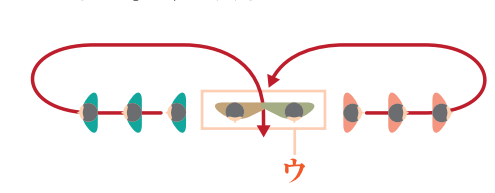
④ イ



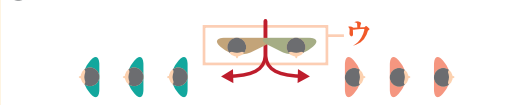
⑤ 正面を向きアで6回



⑥ 中央の2人は内側の手をつなぎウの踊りを繰り返す。他の人はアを踊りながら左右に分かれて後ろに回り中央の2人の後ろに一列になり交互に中央二人のつないだ手の下をくぐる



⑦ アを踊りながら前に出たら左右に分かれ元の位置へ戻る



⑧ 元の位置に戻ったら中央の2人も一緒にアで4回



⑨ アで上手、下手より踊り手は登場



ア
手で袖をつかみ胸元に置き、右足を1歩前に踏み出すときに上半身を曲げ両手を斜めに広げる。右足で踏み切り、跳ねながら腕を胸元に戻す

※前に進まずその場で踊るときは左足の位置に飛んで下がる

イ 上半身を左に傾け跳ねながら両手を広げた後胸元で閉じる動作を5回繰り返し反時計回りに回転する



5回動作を繰り返し1周する。その後左右を逆にした動作で時計回りにまわり元に戻る

ウ 腕を上げて手をつなぎ 空いた手は外側に開き胸元に戻す動作、外側の足も開いて閉じる動作を繰り返す



左右の人が腕の下を通り元の位置に戻るまで続ける

釧路春採地方

フッタレチュイ

(女性の黒髪の踊り・松の木の踊り)



フッタレチュイ

フッタレチュイは、松の木の枝が風で揺れているという情景を表している踊りです。

女性たちが美しい黒髪を活かして踊るのが特徴で、体力比べのような踊りです。歌い手と踊り手に分かれます。フッタレチュイは、他の地域でも踊られていますが、釧路・春採地方のフッタレチュイは一度、伝承が途絶えたため、この地方の踊りを知る人から踊りと唄を習い、復活させ今に引き継いでいます。

■ 歌詞 ※

♪ フッタ レ チュイ ア ラ フンナ フィ

以上くりかえし

※ アイヌ語は片仮名表記 現在釧路春採地方に伝わる歌詞です。

フッタレチュイは、2列に並んで踊ります。膝の屈伸をつづけて上体を前後に動かす動作が多く、体力が必要な踊りです。踊り手は髪の毛の長い女性で、髪の毛を大きく振るのが特徴です。髪の毛で松の木の枝が揺れているのをあらわしています。途中で輪になって踊る輪踊りの要素も入っています。



■ 踊りの各部

基本的な動作です。

二列に並びます。左右の踊り手が対になって踊ります。



① 正面を向き、手を上下にたたいて膝を屈伸します。



- ②手足の動作をつづけ、右の踊り手は反時計回りで後ろを向きます。



- ③つづいて左右の踊り手が同時に向きをかえます。左の踊り手は反時計回りに半回転し、右の踊り手は時計回りで正面向きにもどります。



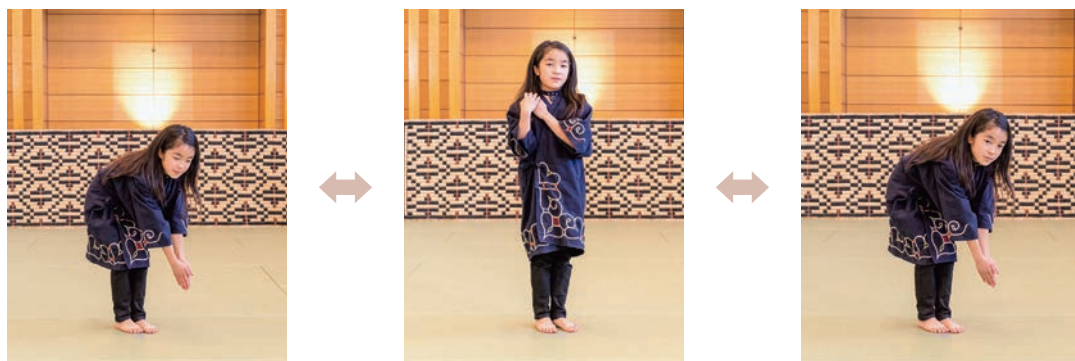
④両手で膝を6回たたきながら、時計回りに半回転します。この時、足は屈伸します。



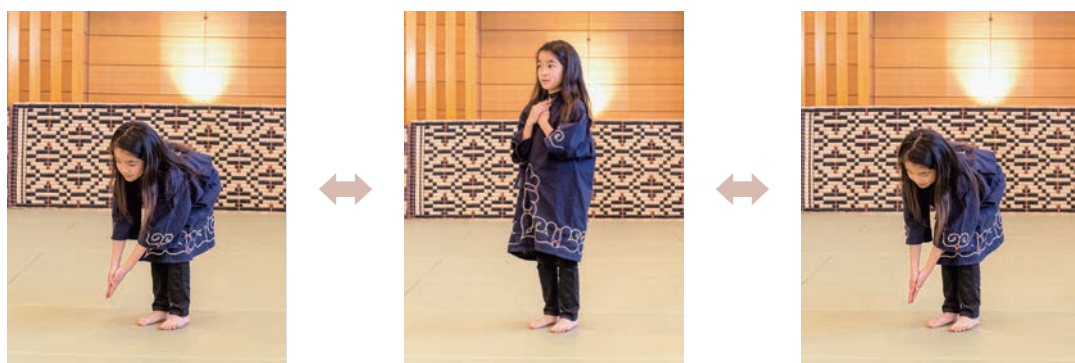
左右の踊り手が同時に向きをかえます。左の踊り手は反時計回りに半回転し、正面を向いた後、時計回りで後ろ向きにもどります。右の踊り手は逆の動きです。



⑤右側の踊り手を例にします。身体を前に曲げて左足元で手をたたき、身体を起こして右肩に両手をそえる動作を6回行います。



④つづいて右足元で手をたたき、左肩に両手を添える動作を6回行います。

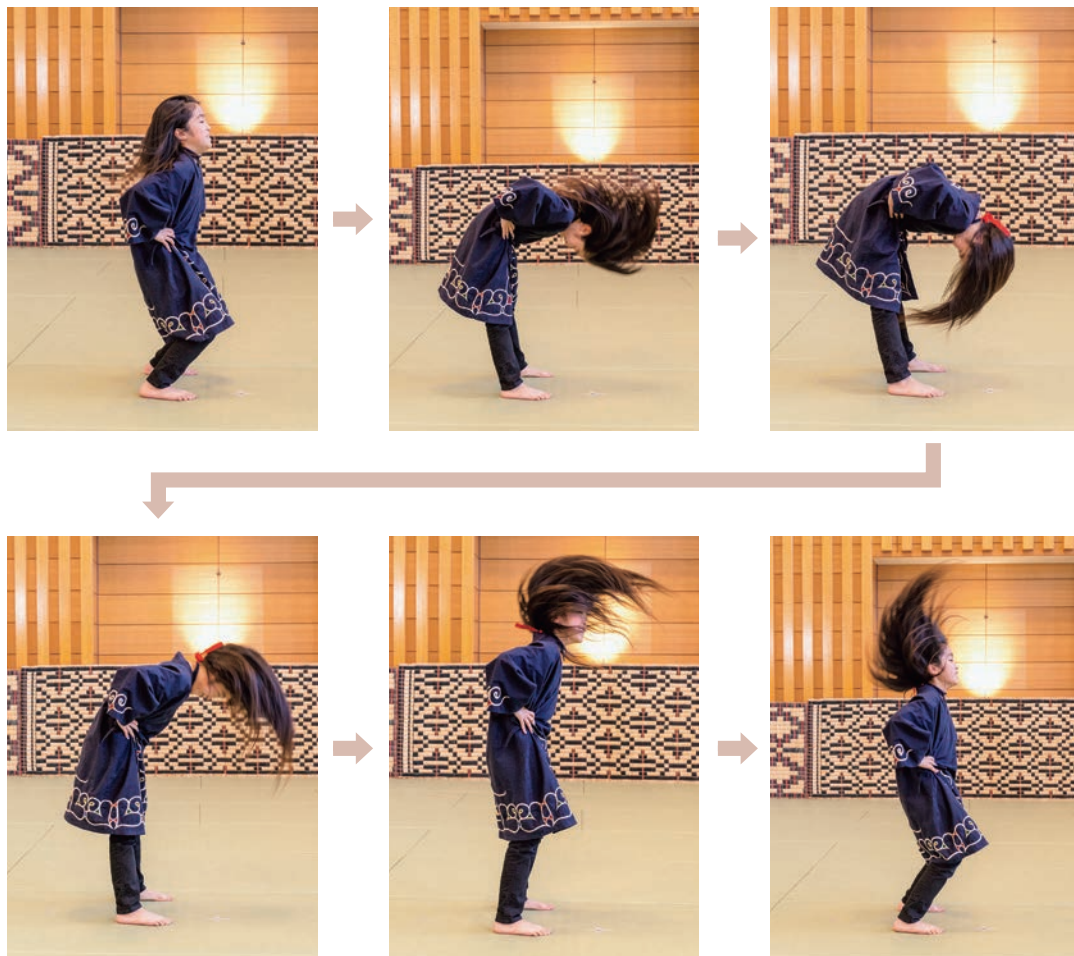


⑥ ⑤の動作を行うときは、左右の踊り手が向かい合い、動作を交互に行います。
左の踊り手は右肩に手を添える動作から始めます。



⑦腰に手を当て、膝の屈伸も使いながら上半身を前後させて髪の毛をゆらしします。

膝を伸ばす時に、上半身を前にたおして髪の毛を前に振り、身体を起こして髪の毛を戻しながら膝を曲げます。



⑧ ⑦の動作を行うときは、左右の踊り手が向かい合い、動作を交互に行います。

右の踊り手が踊りはじめ、左の踊り手は遅れて動き出します。最初は斜め左向きで6回、次に斜め右向きになり6回行います。

斜め右向き



斜め左向き

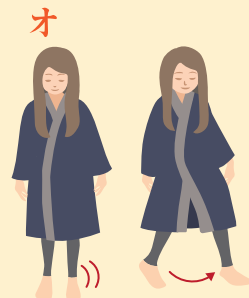
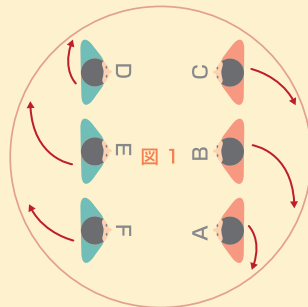


- ⑨髪を揺らした後、左足を左に出して右足を戻して横に進みます。輪を作り、内側を向いて一周します。このとき、踊り手は、着物の身頃の横を軽くつまみます。

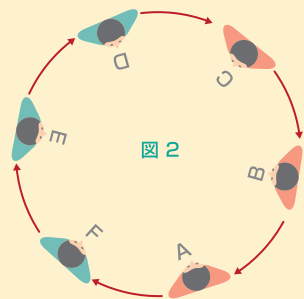


踊りの輪のコース

足を左に踏み出して時計回りに進む、



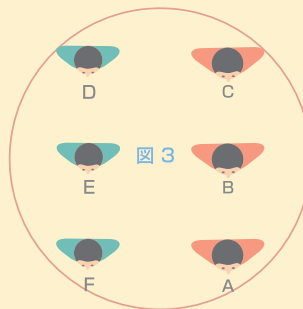
服の裾を軽くつまんで左足を横に出し右足をそろえて横歩きに進むときかかとを上下させる



オの踊りで

・図 1 の形から左に丸く
周りながら図 2 の形へ

・ 1 周したら元の位置に戻り
の図 3 のように並ぶ

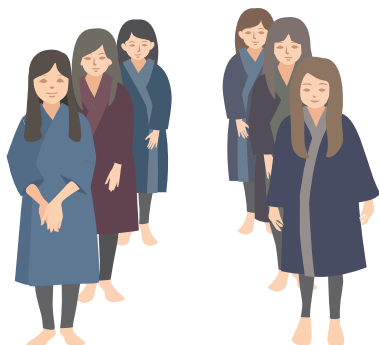




⑩一周した後は、正面を向き2列になって①～⑧の動作をくり返し、最後に①の動作で正面を向いたまま終わります。



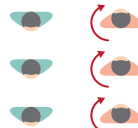
踊り全体の動きと各部の踊り



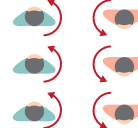
① アを6回



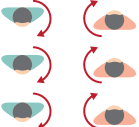
② アを6回で右側の人は後ろを向く



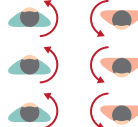
③ アを6回で右側の人は前、左の人は後ろを向く



④ イを6回で右側の人は後ろ、左の人は前を向く



⑤ イを6回で右側の人は前、左の人は後ろを向く



⑥ 向かい合い斜め左でウ



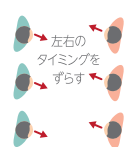
⑦ 斜め右でウ



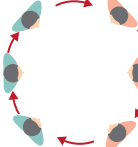
⑧ 斜め左でエ



⑨ 斜め右でエ



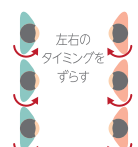
⑩ オで輪になり時計回り



⑪ 一周し元の場所に戻りアを6回



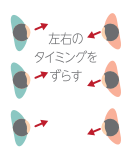
⑫ 向かい合いウ



⑬ 向かい合いウ



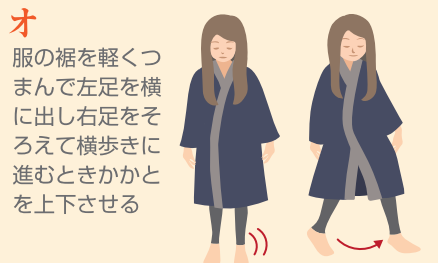
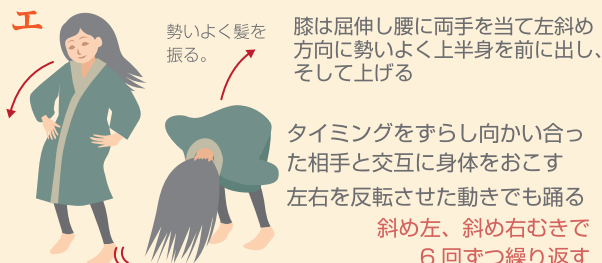
⑭ 斜め左でエ



⑮ 斜め右でエ



⑯ 正面を向きアを6回



ウポポ^o（座り唄）

イカムツカサンケ／チュプカワカムイラン



ウポポ

ウポポ（座り唄）は、どの地域でも歌われます。祭りのとき、女性が車座になって、シントコ（行器 [ほかい]）の蓋をたたいて拍子をとりながら歌う合唱曲で、グループに分かれる場合、輪唱になります。唄は、即興性はほとんどなく、歌詞は伝えられたままを歌います。

ここでは、「イカムツカサンケ」と「チュプカワカムイラン」（酒づくりの唄）の2曲をつづけて歌っています。どちらも、カムイミ（神々への祈り）が終わった後のリムセ（輪踊り）を踊るときのウポポの一つです。

■ 歌詞 ※

ウポポ

「イカムツカサンケ」

♪ イカムツカ サンケー イサンナー 以上くりかえし

「チュプカワカムイラン」（酒づくりの唄）

♪ チュプカワ カムイラン モシリカタ オラン

モシリカタ コンカニ マイネ チヌー 以上くりかえし

※ アイヌ語は片仮名表記
現在釧路春採地方に伝わる歌詞です。

イカムッカサンケは、シントコの蓋を出して来なさい、という意味で、儀礼のときに使うトト（酒）を作る工程の唄と踊りの一部です。

チュプカワカムイランは、「東の方から神様が降りて来られた。腰につけた金や銀の細工物がシャラシャラとい

い音をたてながら岩の上に降りられた」と歌っています。

ウポポはシントコの蓋を取り巻くように座ります。

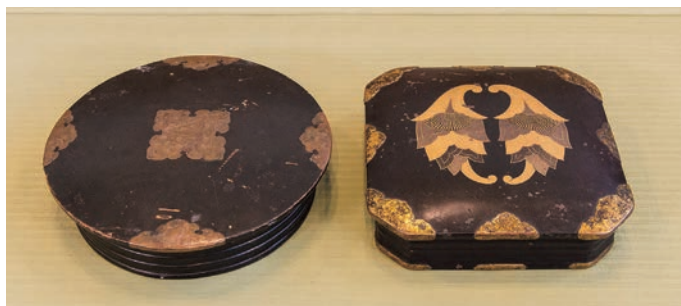


■ 踊りの各部

《道具》

使用する道具は、シントコ（行器※）・漆塗りの容れ物の蓋です。

※和人との交易で手に入れたもので、アイヌの人たちは行器〔ほかい〕を酒の醸造容器として使ったり、宝物としても扱いました。



基本的な動作です。

- ①シントコの蓋の後ろに右膝を立てて座ります。左膝を左手で抱えたり、左肘を置きます。右手は右膝の上に置きます。



- ②右手でシントコの蓋を叩いて膝に戻すという動作を繰り返します。



拍子を取りながらグループごとに輪唱します。



人数、グループ数に関係なく輪唱できます。何回歌うという決まりはなく、いつまでも歌い続けることができます。

ロホンリムセ (棒の舞)



ロホンリムセ

釧路春採地方に伝わるロホンリムセは、もともと自然の中にある木の枝などを使った棒遊びの踊りです。棒を落とすと負けという遊びを踊りにしたのですが、踊りの中でオンカムイ（拝礼）をする、奉納の踊りでもあります。様々な儀礼の後やたくさん人が集まったときに踊りました。歌い手と踊り手に分かれます。

■ 歌詞 ※

♪ ロホンナ ロホン ロホンナ ロホン

ロホン ノシキ チトウイテッカ チターリー ターリ 以上くりかえし

※ アイヌ語は片仮名表記 釧路・春採地方に伝わるアイヌ語の歌詞です。

今回のロホン リムセは、舞台上披露する公演用として踊っていますが、本来は、勝ち負けのある遊びの一種です。2列になり、2人1組となって踊ります。反対側の踊り手が、棒遊びの勝負をする相手となります。互いにオンカムイ（拝礼）してから、棒を奪って棒を膝の下にくぐらせる、技を競います。



片側の一人が、棒遊びの技を披露したら次に、対する相手が棒遊びの技を披露する番になります。どちらかが落とすと負け、どちらも落とさずにきれいな棒遊びの技を披露したり、どちらも落としてしまった場合は引き分けになります。

2人1組で棒を受け渡しをしますが、渡す方は棒をとられまいとして、取る方は早く取って、股の下へ通そうという一つ目の遊びと、受け取った方が上手に股の下へ通そうとすることで勝ち負けが出てきて2つ目の遊びになります。

■ 踊りの各部

《道具》

●ロホン（木の棒）

木の棒は、長さ60cmほどで、握りやすい太さであれば、どのようなものでも構いません。

今回の踊りに使われるロホンは、向きがわかるように作られています。

樹皮がついている側が、前になります。



基本的な動作です。

①左右の踊り手は、正面と後ろ向きになり、一方が棒を脇に抱えます。左右共に膝を屈伸しながら手をたたきます。

左右の踊り手が同時に時計回りに飛んで、左右で向きを入れ替えます。



- ② 踊り手が向かい合って、体をかがめて左下で手をたたき、その手を上げて右肩に添える動作を4回行います。



- 踊りの動作の左右を入れかえて4回繰り返します。



③手を叩きながら左足を左側に踏み出して進み時計回りに輪を作って回ります。踊り手は輪の内側を向きます。半周して前後左右の位置を入れ替えます



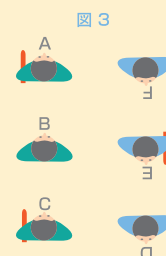
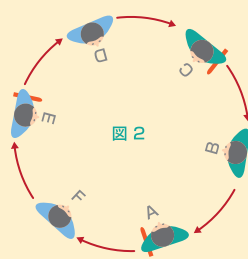
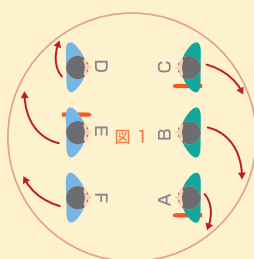
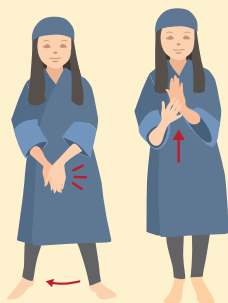
踊りの輪のコース

ア 足を左に踏み出して時計回りに進む、腕は上下に動かしながら手を打って、拍子をとる

アの踊りで

・図1の形から左に丸く周りながら図2の形へ

・半周したら左右の列に入れ違った状態の図3のように並び



- ④再び②の動作、左下で手をたたき、その手を持ち上げ右肩に手を添える動作を4回続けた後、左右の向きを入れ替えた同じ動作を行います。



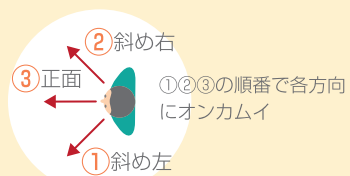
- ⑤向き合った2人は、それぞれ斜め左・斜め右・向かい合っの順で合計3回オンカムイします。



オンカムイ



下から両手を救うように持ち上げ顔の前へ、そのまま胸元に囲い込むようなしぐさ



口ホンを水平に持ち下からすくいあげ顔のそばに寄せた後に胸元へ



⑥棒をもつ踊り手は、右手に棒を持って相手にむかって、取られまいとするように様々な方向に差し出します。



⑥ 棒をもつ踊り手は、右手に棒を持って相手にむかって、取られまいとするように様々な方向に差し出します。



棒を取られた方は、手拍子をしながら足を屈伸させます。上手に足の下に棒を通すことができれば勝ち。落としてしまうと負けになります。



⑧決着がついた後、今度は棒を取った踊り手が棒を脇に挟んで①～⑦までの動作を繰り返します。



⑨踊りの最後は、全員観客側を向き、手拍子と膝の屈伸をして終了します。



踊り全体の動きと各部の踊り

ロホン(棒)

移動や踊りの際は左脇にはさんでおく

むかい合う人物は互い違いにロホンを脇にはさむ

1 アを8回

2 時計回りに飛んで周りアを8回

ア

膝は屈伸をしながら、腕は上下に動かしながら手を打って、拍子をとる

腕を手前に引くときは、かかとを上げる

イ 左ひざの外側で手をたたく。軽くにぎった手を、右の肩に引き上げる動きを繰り返す

左右を反転させた動きでも踊る

1 方向の動きを4回繰り返す

3 むかいあってイ

4 横に歩きながらアで時計まわり半周

図解 53P

5 ア左右が入れ違う形に

6 アを8回

7 むかいあってイ

8 オンカムイ

9 ウむかい合った相手とロホンを取り合う

10 ロホンを取った人はエ ロホンを取られた人はア

11 へ戻り踊りを繰り返す

今回の踊りでは2巡してアで終わる

オンカムイ

両手をゆっくり胸元へ

下から両手をすくうように

ロホンを持つ人は両手で水平にロホンをもってオンカムイ

①斜め左 ②斜め右 ③正面

①②③の順番で各方向にオンカムイ

図解 54P

ウ ロホンを持っていない人がロホンを取ろうと踏み込み、ロホンを持つ人はそれに合わせ取られないように動く

片手でロホンを持ち取られまいとする

ロホンを取ろうとする

ロホンを様々な方向に差し出す

エ ロホンを取った人は左右交互に足を上げロホンを通す

ロホンを取られた人はこのときアの踊り

おわりに

日々の生活の中で生まれ、受け継がれてきたアイヌの踊り。人々が集まれば、特別な楽器がなくとも踊りが始まりました。神への感謝、そして自分たちの楽しみのために踊りました。

踊りは、アイヌの人々にとって暮らしになくてはならないものだったのです。

現在、アイヌの踊りは北海道の各地に伝承されており、地方ごとの特徴を持っています。

これらの踊りはアイヌ古式舞踊として国の重要無形民俗文化財に指定され、ユネスコ無形文化遺産に登録されています。



コタンコロカムイ



カムイリムセ



ニカタウィクイ



フッタレチュイ



ウボボ イカムツカサンケ／チュプカワカムイラン



ロホンリムセ

■出演者 (敬称略)

【浦河地方】 コタンコロカムイ・カムイリムセ・ニカタクイクイ

〈浦河アイヌ文化保存会〉

〔踊り〕 川崎セツ子 佐々木伸子 中田 年枝
三関 佳二 三関 恵 向井ヒロ子
八重樫正恵 八重樫志仁

〔歌〕 川崎セツ子 小島 トキ 吉田 三子
富菜 信子 堀 悦子 三関 佳二

〔解説〕 堀 悦子

【様似地方】 フッタレチュイ・ウポポ・ロホンリムセ

〈春採アイヌ古式舞踊釧路リムセ保存会〉

〔踊り〕 白崎 千帆 白崎 七菜 白崎 瑞菜
富樫 正枝 桃井 麻美 桃井 芽衣
桃井 優衣 桃井 芳子 八重久美子
吉川なみえ 吉川 愛海 吉川 海空

〔歌〕 白崎 千帆 富樫 正枝 桃井 麻美
桃井 芳子 八重久美子 吉川なみえ

〔解説〕 吉川 冠人

参 考 文 献

アイヌの踊りの参考となる文献を紹介します。

●日本放送協会

1965：『アイヌ伝統音楽』 株式会社日本放送出版協会

●日本民俗舞踊研究会

1987：『北海道アイヌ古式舞踊 昭和61年度文化財国庫補助事業調査報告書』

●北海道アイヌ古式舞踊連合保存会

1987：『北海道アイヌ古式舞踊・唄の記録』

昭和60年度北海道アイヌ古式舞踊連合保存会委託事業

●田村すず子

1987：『アイヌ語沙流方言辞典』 株式会社草風館

●北海道教育委員会

1991：『平成2年度 アイヌ古式舞踊調査報告書(Ⅰ)―白糠・新冠・鵠川―』

●財団法人アイヌ民族博物館

1993：『アイヌ文化の基礎知識』 株式会社草風館

●北海道教育委員会

1993：『平成4年度 アイヌ古式舞踊調査報告書(Ⅲ)―三石・弟子屈・札幌・常呂―』

●岡田和夫・松宮文子・村上紀子・平野正美

1998：『新版 絵でみる 表現・民舞 指導のポイント』 株式会社あゆみ出版

踊りを体験できる施設

アイヌの踊りを体験できる施設をいくつか紹介します。
要予約等のため事前に各施設へご確認ください。

北海道内

- | | |
|---------------------------------|------------------|
| ●一般財団法人アイヌ民族博物館 | 白老町若草町2-3-4 |
| ●川村カ子トアイヌ記念館 | 旭川市北門町11丁目 |
| ●札幌市アイヌ文化交流センター
「サッポロピリカコタン」 | 札幌市南区小金湯27 |
| ●平取町立二風谷アイヌ文化博物館 | 平取町二風谷61 |
| ●阿寒湖アイヌシアターイコロ | 釧路市阿寒湖温泉4丁目 |
| ●昭和新山アイヌ記念館 | 有珠郡壮瞥町昭和新山184-11 |

アイヌ生活文化再現マニュアル

踊り

【ウポポ・ホリッパ・リムセ】

浦河・釧路春採編

2017年7月 発行

発行 公益財団法人アイヌ文化振興・研究推進機構

〒060-0001

北海道札幌市中央区北1条西7丁目

プレスト1・7（5階）

TEL(011)271-4171/FAX(011)271-4181

本書の内容の一部または全部を無断で複写複製（コピー）することは、法律で禁止されていますので、あらかじめ公益財団法人アイヌ文化振興・研究推進機構あてに許諾をお求めください。